

# 病害虫情報(第3号)6月予報

平成30年5月31日  
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333  
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

## 【内容】

- I 6月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 ..... 1  
【水稲、カンキツ、ナシ、カキ、ブドウ(大粒種)、キウイフルーツ、チャ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、ネギ、スイカ、カボチャ、メロン】
- II 6月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 ..... 12

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、平成30年5月29日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

## I 6月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

### 【水稲】

田植時期:並

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
ヒメビウンカ (縞葉枯病)	やや多 (並)	○	【育苗箱施薬 ヒメビウンカ、イネミズゾウムシ】 アドマイヤーCR箱粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱
イネミズゾウムシ	並	○	【育苗箱施薬 ヒメビウンカ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ】 グランドオンコル粒剤 [移植3日前～移植当日,1回] 50g/箱 プリンス粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱 ツインターボフェルテラ箱粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱
ニカメイチュウ	やや少	○	【本田防除 ニカメイチュウ第一世代】 パダン粒剤4 [30日,6回] 3～4kg/10a スミチオン乳剤 [21日, 2回] 1,000～2,000倍 等 ◆ イネ縞葉枯病(ヒメビウンカ)に関する防除情報を平成30年5月1日に発表。 ◆ 縞葉枯病対策として、ヒメビウンカの防除は必須。 ◆ ツマグロヨコバイの発生が多い地域では、アドマイヤーCR、グランドオンコル、ツインターボフェルテラを使用。 ◆ 白葉枯病の発生が懸念されるほ場では、ツインターボフェルテラを使用。 ◆ 育苗箱施薬にアドマイヤーCRを使用した場合、必要に応じてニカメイチュウに対する本田防除を発蛾最盛期以降に実施する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(平成30年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## 【カンキツ】

生育:早(足柄地区事務所根府川分室:普通温州)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒点病	やや少	○	(予) ジマンダイセン水和剤またはペンコゼブ水和剤 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 黒点病 600~800倍 みかん:[30日,4回],黒点病 400~800倍,そうか病 400倍
そうか病	並	○	(予) イデクリーン水和剤[-,-] 400~800倍 + クレフノン[-,-] 200倍 等
			◆ 黒点病は散布後に積算降水量が250mmを超えたら、再散布する。 ◆ 黒点病は、伝染源である樹上枯枝を剪除し、園内に放置しない。 ◆ イデクリーンは、マシン油乳剤との混用および14日以内の近接散布を避ける。
ミカンハダニ	並	○	マシン油乳剤(97%,98%) 等
カイガラムシ類	-	○	◆ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なる。
ミカンサビダニ チャノキイロ アザミウマ	-	○	ハチハチフロアブル[前日,2回] ミカンサビダニ:2,000~3,000倍 アザミウマ類:1,000~2,000倍 コテツフロアブル[前日,2回] ミカンサビダニ:4,000~6,000倍 アザミウマ類(ネギアザミウマ除く):2,000~6,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【ナシ】

生育:早(生産技術部果樹花き研究課:豊水)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒星病	並	○	(予) キノドーフロアブル[3日,9回] 1,000倍 (予・治) アンビルフロアブル[7日,3回] 1,000~2,000倍 等
アブラムシ類	やや少	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤[前日,3回] 2,000倍 ダントツ水溶剤[前日,3回] 2,000~4,000倍 スミチオン水和剤40[有袋14日,無袋21日,6回]
シンクイムシ類 (発生時期)	(やや早)	○	アブラムシ類,シンクイムシ類:800~1,200倍 カメムシ類:800~1,000倍 等
			◆ カメムシ類、シンクイムシ類の発生消長は、ホームページの情報を参考にする。 ◆ シンクイムシ類の第2世代の幼虫を対象とする防除は、第1世代の成虫発生ピークから7~9日後が適期である。
カメムシ類	並	○	
ニセナシサビダニ	並	○	サンマイト水和剤[21日,1回] 1,000~1,500倍 等
ハダニ類	並	○	ダニサラバフロアブル[前日,2回] 1,000~2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(平成30年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## 【カキ】

生育:早(生産技術部果樹花き研究課:松本早生富有)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント	
落葉病	やや少	○	(予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 3,000倍	等
うどんこ病	やや少	○		
フジコナ カイガラムシ	—	○	ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000~4,000倍 トクチオン水和剤 [75日,2回] 800倍	等
カキノヘタムシガ (発生時期)	(早)	○	ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000~4,000倍 ディアナWDG [前日,2回] 5,000~10,000倍 ❖ カキノヘタムシガ第1世代幼虫の防除適期は、富有の開花盛期(開花率80%以上)から10日後である。	等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## 【ブドウ(大粒種)】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント	
べと病 黒とう病 晩腐病	—	○	(予・治) リドミルゴールドMZ [45日,2回] ベと病:1,000倍 ☞ リドミルゴールドMZは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ホライズンドライフアブル [21日,3回] ベと病:2,500~5,000倍 黒とう病、晩腐病:2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) マネージDF [21日,3回] 黒とう病: 4,000~6,000倍 (予・治) ライメイフロアブル [14日,3回] ベと病: 3,000~4,000倍	等
チャノキイロ アザミウマ	—	○	アディオオン水和剤 [7日,5回] 2,000~4,000倍 アドマイヤー顆粒水和剤 [21日,2回] 5,000~10,000倍 アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 ❖ 袋内に侵入しないように、止め金をしっかり固定する。	等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【キウイフルーツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント	
かいよう病	やや多	◎	(予) コサイド3000 [収穫後~果実肥大期,-] 2,000倍 ❖ 症状が急速に進行する場合は、かいよう病新系統の感染が疑われるので、当所へ連絡してください。	等
果実軟腐病	—	○	(予・治) トップジンM水和剤 [前日,5回] 1,000倍 (予・治) ベンレート水和剤 [7日,5回] 2,000倍	等
カメムシ類	並	○	ダントツ水溶剤 [前日,3回] 2,000~4,000倍	等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(平成30年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

【チャ】 生育：早(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
もち病	並	○	【二番茶の萌芽～2葉開葉期】 (予・治) オンリーワンフロアブル [7日,2回] もち病、炭疽病：2,000～3,000倍 新梢枯死症：2,000倍
炭疽病	—	○	
輪斑病 新梢枯死症	—	○	【二番茶摘採直後】 (予・治) カスミンボルドー [30日,1回] 輪斑病、炭疽病、新梢枯死症 ：1,000倍 等
カンザワハダニ	並	○	【二番茶の萌芽～2葉開葉期】 コテツフロアブル [7日,2回] カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、チャノコカクモンハマキ：2,000倍 カスケード乳剤 [7日,2回] チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、ツマグロアオカスミカメ、チャハマキ、チャノコカクモンハマキ：4,000倍 キラップフロアブル [7日,1回] ツマグロアオカスミカメ、チャノキイロアザミウマ、チャノホソガ：2,000倍 等 ❖ カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマを対象とする防除を基本として、チャノホソガ、ツマグロアオカスミカメについては発生状況に応じて追加防除を行う。
チャノミドリ ヒメヨコバイ	並	○	
チャノキイロ アザミウマ	並	○	
チャノホソガ	やや少	○	
ツマグロ アオカスミカメ	やや少	○	
ハマキムシ類 チャハマキ チャノコカク モンハマキ	やや多	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「摘採\*日前まで」を「\*日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(平成30年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## 【露地トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
疫病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,4回] 1,000倍 (予) Zボルドー [—,—] 疫病:400~600倍												
葉かび病	—	○	(予・治) ホライズンドライフロアブル [前日,3回] 疫病:1,500~2,500倍、葉かび病:2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,3回] 葉かび病:2,000~4,000倍 等												
アブラムシ類	やや多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍												
コナジラミ類			チェス顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:5,000倍												
タバココナジラミ	やや多	○	サンクリスタル乳剤 [前日,—] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等												
オンシツコナジラミ	並	○	◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。												
アザミウマ類	やや多	○	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
オオタバコガ	並	○	◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回]5,000倍 アニキ乳剤 [前日,3回] 2,000倍 トルネードエースDF [前日,2回] 2,000倍 等												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(平成30年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## 【露地キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント										
べと病	並	○	(予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予・治) エトフィンフロアブル [前日,4回] ベと病:1,000倍										
うどんこ病	やや多	○	(予・治) ホライズンドライフロアブル [前日,3回] ベと病:2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] うどんこ病:2,000倍 (予・治) プロパティフロアブル [前日,3回] うどんこ病:3,000~4,000倍 等										
アブラムシ類	やや多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、アザミウマ類:2,000~4,000倍、 コナジラミ類:2,000倍										
コナジラミ類 タバコ コナジラミ	やや多	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 チェス顆粒水和剤 [前日,3回]										
オンシツ コナジラミ	並	○	アブラムシ類、コナジラミ類:5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等										
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○	◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類	MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類												
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												
ミカンキイロ アザミウマ	並	○	◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(平成30年・第3号・6月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【ナス】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
灰色かび病	—	○	(予)フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍 (予・治)ベルクートフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等 ❖発病した果実や葉は、早期に取り除きほ場の外で適切に処分する。
アブラムシ類	やや多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類:4,000倍、アザミウマ類:2,000~4,000倍
アザミウマ類	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:2,500~5,000倍
ミナミキイロ アザミウマ			チェス顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類:5,000倍
ミカンキイロ アザミウマ	並	○	サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類:300倍 等
オオタバコガ	並	○	トルネードエースDF [前日,2回] 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] 5,000倍 アニキ乳剤 [前日,3回] 2,000倍 等
ハダニ類	—	○	コロマイト乳剤 [前日,2回] 1,500倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【ネギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
さび病	—	○	(予)ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [14日,3回] 600倍 (予・治)アミスター20フロアブル [3日,4回] 2,000倍 (予・治)ベルクート水和剤 [30日,3回] 2,000倍 等 ❖ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。
ネギアザミウマ	—	○	【生育期:株元灌注】 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [生育期(但し、14日),1回] 400倍,0.4L/m <sup>2</sup> 【生育期:散布】 ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000倍 アニキ乳剤 [3日,3回] 1,000倍 ボタニガードES [発生初期,-] 500~1,000倍 等 ❖ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(平成30年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## ▼三浦半島地区野菜▼

### 【スイカ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
つる枯病	並	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [7日,7回]400~600倍 (予) ダコニール1000 [3日,5回] つる枯病:700~1,000倍、炭そ病:700倍
炭疽病	並	○	(予・治) ベルクート水和剤 [前日,4回] 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日,4回] つる枯病:1,000倍
うどんこ病	並	○	(予・治) ガッテン乳剤 [前日,2回] 5,000倍 (予・治) ベルクート水和剤 [前日,4回] 1,000倍
アブラムシ類	並	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000~4,000倍 ウララDF [前日,2回] 2,000~4,000倍
アザミウマ類	やや多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000~4,000倍 アフーム乳剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 カスケード乳剤 [7日,4回] ミナキイロアザミウマ:2,000~4,000倍
ハダニ類	やや少	○	コロマイト乳剤 [7日,2回] 1,000倍 カネマイトフロアブル [前日,1回] 1,000~1,500倍

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

### 【カボチャ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
疫病	—	○	(予) Zボルドー粉剤DL [-,-] 4kg/10a (予・治) ランマンフロアブル [前日,3回] 2,000倍
うどんこ病	やや少	○	◆ 薬剤散布では、地表面に接する茎や果実に薬剤が付着するように散布する。 (予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍 (予) イオウフロアブル [-,-] 500倍 (予) ダコニール1000 [7日,3回] 1,000倍 (予・治) ガッテン乳剤 [前日,2回] 5,000倍 (予・治) ベルクート水和剤 [7日,4回] 1,000~2,000倍
アブラムシ類	やや多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,2回] 2,000~4,000倍

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。



# 病害虫情報

(平成30年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## ▼三浦半島地区野菜▼

### 【メロン】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例	
			◆防除のポイント	
つる枯病	並	○	(予) ダコニール1000[3日,5回] 1,000倍 (予・治) ベルクート水和剤 [前日,5回] 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日,4回] 1,000倍	等
			◆ 株元の古葉を摘除して通風を図る。	
べと病	—	○	(予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [3日,5回] 1,000倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ホライズンドライフロアブル [前日,3回] 2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。	等
うどんこ病	やや少	○	(予・治) ベルクート水和剤 [前日,5回] 1,000倍 (予・治) ガッテン乳剤 [前日,2回] 5,000倍	等
アブラムシ類	並	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 8,000倍 ウララDF [前日,2回] 2,000~4,000倍	等
ハダニ類	並	○	コロマイト乳剤 [前日,2回] 1,000倍 カネマイトフロアブル [前日,1回] 1,000~1,500倍	等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(平成30年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## Ⅱ 6月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

### (1) 6月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部5月25日発表3か月予報)

#### 〈天 気〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

#### 〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並み	高い(多い)
気 温	30%	30%	40%
降 水 量	20%	40%	40%
日照時間*	40%	40%	20%

\*5月24日発表1か月予報による。

### (2) 6月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稲	ヒメビウンカ (縞葉枯病)	少	やや多 (並)	1) ヒメビウンカ越冬世代の密度は平年より少ない。 (-) 2) 予察灯への飛来は見られず、発生は平年並。(±) 3) ヒメビウンカ越冬世代におけるイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は過去10年並。(±) 4) 4~5月の気温が、平年より高く推移した。(+)
	イネミズゾウムシ	少	並	1) 予察灯への誘殺数は平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。 (+)
	ニカメイチュウ	少	やや少	1) 2017年9月本田調査において、被害株率は平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯への飛来は見られず、発生は平年より少ない。(－) 3) フェロモントラップへの誘殺数は伊勢原、海老名は認められず、小田原は平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。 (+)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(平成30年・第3号・6月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	黒点病	少	やや少	1) 県予察ほ(根府川)では、3月の樹上枯枝量が平年より少ない(-)。 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉発病が平年より少ない(-)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	そうか病	少	並	1) 前年10月の巡回調査では、発生が平年より少ない。(-) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	かいよう病 (中晩柑類)	少	やや多	1) 4月の巡回調査では、越冬病斑の発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉発病が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、慣行防除園での発生が平年よりやや少ない。(-) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
ナシ	黒星病	少	並	1) 巡回調査では、徒長枝での発病は見られず発生が平年並。(±) 2) 巡回調査では、短果枝での発生が8年平均よりやや多い。(+) 3) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず発生が平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(-) 2) 県予察ほ(上吉沢)では寄生は見られず、発生が平年より少ない。(-) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	シンクイムシ類 (発生時期)	-	(やや早)	1) 第1世代成虫の発生ピークは、有効積算温度等によるシミュレーションから、大井では平年並、伊勢原ではやや早いと予測される。
	ニセナシサビダニ	少	並	1) 巡回調査では寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(-) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、1地点で寄生が見られ、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)

※「発生量」..... 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (+):多発要因 (-):少発要因  
「発生時期」..... 早、やや早、並、やや遅、遅

# 病害虫情報

(平成30年・第3号・6月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カキ	落葉病	—	やや少	1) 昨年10月の巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	うどんこ病	—	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	カキノヘタムシガ (発生時期)	—	(早)	1) 予察灯調査では、越冬世代成虫の発生ピークが平年より早い。 2) 生育調査では、カキの開花が早い。
キウイ フルーツ	かいよう病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	—	並	1) 落葉内のチャバネアオカメムシ成虫の越冬数は、平年よりやや少ない。(—) 2) ミカン花のビーティング調査では、チャバネアオカメムシの捕獲数は平年よりやや少ない。(—) 3) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原、南足柄、県予察ほ(根府川)で平年よりやや多い。(+) 4) 予察灯への誘殺数は、山北と県予察ほ(根府川)では平年並、伊勢原ではやや多い。(+) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
チャ	もち病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発病は見られず、発生が平年より少ない。(—) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年よりやや少ない。(—) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	チャノミドリヒメヨコバイ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年よりやや少ない。(—) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年よりやや少ない。(—) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (—):少発要因

# 病害虫情報

(平成30年・第3号・6月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	チャノホソガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 予察灯(山北)への誘殺数は、平年より少ない。(－) 4) フェロモントラップの誘殺数は、山北は平年並み(±)、県予察ほ(寸沢嵐)は平年より少ない。(－) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	ツマグロアオカスミカメ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	ハマキムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 予察灯(山北)への誘殺数は、平年並。(±) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北では平年並み(±)、県予察ほ(寸沢嵐)では平年より少なく(－)、県予察ほ(上吉沢)で多い。(＋)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
露地トマト	アザミウマ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
露地 キュウリ	べと病	少	並	1) 巡回調査では発病は見られず、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	うどんこ病	少	やや多	1) 巡回調査では発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
ナス	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少	並	1) キュウリの巡回調査では寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(平成30年・第3号・6月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
露地トマト 露地 キュウリ ナス	アブラムシ類	－	やや多	1) 巡回調査ではトマト、キュウリでの発生が平年並(±)。 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
露地トマト 露地キュウリ キュウリ ナス	タバココナジラミ	少	やや多	1) 巡回調査では、トマトでは発生が平年よりやや多く(＋)、キュウリでは発生が平年より多い(＋)。 2) 施設の巡回調査では、トマトでは発生が平年並(±)、キュウリでは寄生は見られず発生が平年よりやや少ない(－)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、トマトでは寄生は見られず、発生が平年より少なく(－)、キュウリで発生が平年並(±)。 2) 施設の巡回調査では、トマトでは発生が平年並(±)、キュウリでは寄生は見られず発生が平年よりやや少ない(－)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	ハモグリバエ類	少	やや多	1) トマトの巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
露地野菜 全般	オオタバコガ	－	並	1) フェロモントラップ調査では、誘殺数は平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

# 病害虫情報

(平成30年・第3号・6月)

…… 神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

病害虫名	作物名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
つる枯病	(スイカ) (メロン)	少 少	並 並	1) 巡回調査ではスイカ、メロンとも発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
炭疽病	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
うどんこ病	(スイカ) (カボチャ) (メロン)	少 少 少	並 やや少 やや少	1) 巡回調査では、スイカ、カボチャ、メロンとも発病は見られず、スイカでは発生が平年並(±)、カボチャ、メロンでは発生が平年よりやや少ない(-)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
アブラムシ類	(スイカ) (カボチャ) (メロン)	少 中 少	並 やや多 並	1) 巡回調査では、スイカでは発生が平年よりやや少なく(-)、カボチャでは発生が平年よりやや多く(+)、メロンでは発生が平年より少ない(-)。 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
アザミウマ類	(スイカ) (メロン)	中 中	やや多 やや多	1) 巡回調査では、スイカ、メロンとも発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)
ハダニ類	(スイカ) (メロン)	少 少	やや少 並	1) 巡回調査では寄生が見られず、スイカでは発生が平年より少なく(-)、メロンでは発生が平年よりやや少ない(-)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(+)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (-): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

## ★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
    - ▶ QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
      - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
      - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

## ★ナシ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
    - ▶ QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
      - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
    - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
      - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回

## ★ブドウ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(フリント、アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
  - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(レーバスフロアブル)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルM水和剤等)の場合:1作2回

## ★チャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
    - 単剤の場合:1年1回
    - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

## ★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

## ★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回



## ★ナス★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

## ★スイカ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤(シグナムWDG)の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤(シグナムWDG)の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(マネージ、ルビゲン)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

## ★カボチャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ストロビー)
    - 単剤の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ)の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルC、プロポーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

## ★メロン★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(ルビゲン)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回